

「大会展望」

# 熱き戦い

## 出場48チーム

### 頂点をつかむのは？

文＝取材班

全てはこの夏のため  
第105回  
全国高校野球選手権  
青森大会

今春の東北大会で昨夏の甲子園覇者・仙台育英を破って優勝した八学光星、春の青森県大会優勝の工大一、同3位の青森山田、同4位の弘学聖愛の第1〜4シード勢を軸に激戦が予想される。ただ、工大二や弘前東など第5シード勢、一部ノースイード勢にも大きな力の差はなく、波乱があってもおかしくない。

#### 春の県王者・工大一が優位／Aブロック

組み合わせを見ると、Aブロックは投打に総合力の高い工大一が優位。投手陣は本格派左腕の金淵光希に期待がかかる。機動力や小技を絡めて捕さぶりをかける攻撃が得意だ。同じブロックには見弟校の工大二も入っており、勝ち進めば準々決勝でぶつかる。エース速攻健聖の

出来が勝負の鍵を握ってきそう。このほか、八戸西や八学野西などの県南勢が上位を狙う。古豪対決となる青森商―三沢の開幕ゲームにも注目だ。

#### 弘学聖愛が一歩リード／Bブロック

Bブロックは佐藤幹太、吹田志道を中心に細かい継投で粘り強く弘学聖愛が一歩リードしている。春の県大会ではこそぞという場面での集中打も光った。強豪の東義のほか、三沢商、大湊、弘前実などが波乱を起こせるか。

#### 青森山田が甲子園出場へ闘志／Cブロック

Cブロックは投手力のある青森山田が6年ぶりの甲子園出場へ闘志を燃やす。

投打のバランスが取れた弘前などは侮れない存在になりそう。七戸・六ヶ所・野辺地・百石・八戸商・浪岡・松風塾は、今大会唯一の連合チーム。団結力を発揮したい。

#### 八学光星を追う弘前東／Dブロック

Dブロックは夏の連覇を狙う八学光星に各校が挑む構図だ。中澤恒貴を中心に勝負強い打者がずらりと並ぶ打線は脅威。岡本琉奨、洗平比呂の好投手も擁する。実力のある弘前東や八戸北が上位をうかがう。